

## 概要

妊産褥婦や小児、家族を取り巻く身体的・精神的・文化的・社会的な課題を発見し、産学官共同研究の推進によって母子およびその家族のニーズに合致したエビデンスに基づいた母子保健ケア、家族中心のケアを開発しています。開発されたケアを看護実践に活かし、地域共生社会を構築し、母子・家族の総合的なWell-beingを目標としています。

## 主な研究課題

- ▶ 既往帝王切開後妊娠の経膈分娩トライアル (TOLAC) に関する調査
- ▶ 母親のボンディング障害の関連要因とスクリーニング方法の開発
- ▶ 妊娠糖尿病発症および周産期合併症に関連する生活因子調査
- ▶ 環境要因が妊娠合併症、胎児および生後発達に及ぼす影響
- ▶ 小児造血細胞移植後患者のフォローアップとQOLとの関連
- ▶ 総排泄腔関連疾患患者と家族に対する支援体制構築に向けた縦断的調査研究

ユニット  
リーダー

疋田直子  
(Naoko Hikita)

### Profile

助産師として病院に勤務し経験を積んだ後、NGO職員としてアフリカで2年半勤務しました。その後、東京大学大学院で博士(保健学)を取得し、東京大学、獨協医科大学で勤務した後、2022年より九州大学大学院医学研究院に着任しました。途上国での勤務経験を活かし、モンゴル国の母子保健課題を解決するための研究を展開しています。

## Q このユニットの強みを教えてください

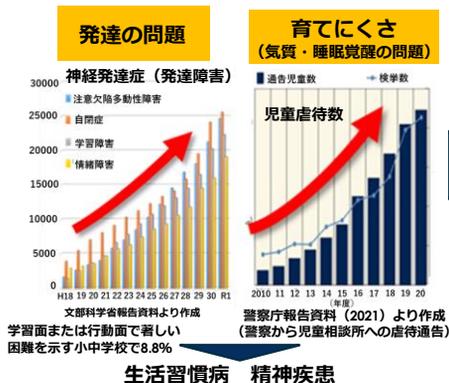
母性看護学・助産学、小児看護学を専門とした研究者の他、医師を含めた様々な医療職との連携により、看護ケアによるアプローチだけでなく、医療的・社会的な面からのアプローチができます。また、女性・子どもだけでなく『家族』全体をケアの対象とした包括的・継続的なアプローチができることも、本ユニットの強みです。さらに、開発途上国で国際共同研究を進めており、成果を国内外に発信することで国際貢献にも寄与しています。

## Q このユニットの成果が社会実装された際の未来社会、臨床へのインパクトを教えてください。

研究から得られたエビデンスをもとに開発したアプリやデジタルデバイス等の社会実装により、妊産褥婦・小児を取り巻く周産期環境(栄養や生活習慣、ストレス等)を改善し、あらゆる健康状態にある児の発達上の問題や、児童虐待などの問題の減少につながると考えています。また、生活習慣病や精神疾患等の減少にも貢献できると考えています。

## 母体の生活習慣(睡眠・活動)と1歳時の睡眠・発達

### 《現状》



### 周産期環境の改善

栄養 生活習慣  
感染 炎症  
大気汚染 ストレス  
内服薬 化学物質

### 《社会実装》

#### 周産期領域におけるケア

- 個の情報 スマートフォン、ウェアラブルデバイスによる情報収集・介入方法の検討
- 個の予防 社会実装に向けた妊婦向けアプリ



エビデンスをもとに社会実装し、発達の問題、児童虐待待数減少へ

問い合わせ

疋田直子研究室  
Email hikita.naoko.419@k.yushu-u.ac.jp